

「愛知県その道の達人」派遣事業 実施報告書

達人名	加藤 三保子先生 (手話の達人)	所属	豊橋技術科大学
実施校	岡崎市立北中学校		
実施日	平成21年9月10日(木曜日)		
実施学年・学級	1年2組(29人)		
教科等名	道徳	単元・題材名	聴覚障害について考えよう
授業の目標	聴覚障がいの方の話を聞いたり、手話を覚えたりすることによって、障がいを身近に感じ、障がいのある方の立場になって考えようとする態度を育てる。		
授業の実際	 <ol style="list-style-type: none"> 1 達人の紹介を聞く。(教師) 2 いろいろなものを手話で表す方法を知る。(達人) <ul style="list-style-type: none"> ・友達の名前 ・感情を表す手話 ・あいさつ 3 聴覚障がい者がどのような暮らしをしているのかを質問する。(教師) <ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障がい者を街で見かけたらどうするか。 ・どんなことに困っているのか。 * 達人が、聴覚障がい者の暮らしぶりを手話を交えながら答える。 4 聾学校の暮らしぶりについて、ビデオを見ながら考える。(達人) <ul style="list-style-type: none"> ・北中学校と同じところ、違うところ 5 「TOMORROW」を手話を使って歌う。(達人・教師) <ul style="list-style-type: none"> 「TOMORROW」の歌詞を見て歌う。 歌詞のことは手話でどのようにあらかわすか考える。 個人練習をする。 全員で発表する。 6 授業の感想を書く。 		
児童生徒の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・手話を使わなければ、話をできない人が思ったよりも多くて驚いた。 ・人には生まれつき耳が悪い人がいる。その人のために自分も少しずつ手話を覚えたいと思った。 ・手話を実際にやりながら話してくれたので、わかりやすかった。 ・手話は、一つの手の形でいろいろ表現できるからすばらしいと思った。 ・耳の聞こえない人の中にも2つのパターンがあることを知った。補聴器をつけても聞こえない人がいる。耳の仕組みがよくわかった。 ・体が不自由な方がたくさんいるなかで、私たちはこんなに健康で幸せだと思った。体の不自由な人の役に立ちたいと思った。 		
教師の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・聾啞者の方がなぜ聞こえないのか、耳の仕組みまで教えていただき、生徒も考えさせられることが多かった。 ・発言に対して、手話を交えて答えていただき、関心が高まった。 ・生徒の考えを生かしながら、「TOMORROW」の歌の手話を行うことができ、満足感のある授業となった。 		